

**いわじんじや 岩神社**

本殿の後ろに高さ4mほどもある大きな岩があります。宝暦10年(1760)の『宇佐崎組 寺社明細帳』には、「祭神 岩神」と書かれてあり、さらに「堂なし岩ばかり」であるとあります。大きな岩を神さまとしてまつっていたことがわかります。明治9年(1876)に本殿がつくられました。

行った日



**いわおじんじや 岩大神社**

明治12年(1879)の『神社明細帳』に祭神大物主命と書かれ、昭和9年(1934)の『村勢一斑』には、永享4年(1432)に建てられたと書かれています。はつきりとはしません。本殿にある神さまの像に宝永6年(1709)と墨で書かれています。当初は屋台蔵の北側の山すそにありましたが、大正時代の終わりごろには今の場所に移されました。

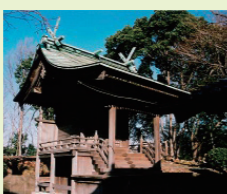
行った日



**おおとしじんじや やぎ 大歳神社(八木)**

素戔鳴尊・奇稻田姫命をまつています。神社がいつ建てられたかは不明ですが、神さまの台座には宝永6年(1709)に建て直されたと彫られています。神社の屋根には、出雲大社とつながりのある神社をあらわす鯉木が3本、女神をまつる証として千木が地面と平行に削られています。

行った日



**きにわじんじや 木庭神社**

十の神さまをまつる特殊な神社。寛永16年(1639)木庭村の三木宗榮が「姫御前宮木庭大明神」と名づけて建てました。寛保元年(1741)、三木宗榮から4代目の子孫・三木寸斗魚泰によって、木庭山の上にほぼ今のすがたで建て直されました。

行った日



**きにわやまこふん 木庭山古墳**

木庭山の古墳は、盛り土が流されていますが、円墳形式の古墳です。平成19年(2007)の調査で、1号墳は7世紀第2四半期、2号墳は6世紀第4四半期につくられたことがわかりました。誰のお墓なのかはわかりませんが、つくられた場所から、海にかわりのある人物ではないかと考えられています。

行った日



**やぎちく 八木地区**



**45 やぎちく 八木地区**

神社やお寺がたくさんありますね。どんな神さまがまつられていて、お寺にはどんな由来があるのでしょうか。不思議な言い伝えのお地蔵さまもいますよ。



調べたこと、わかったことを書いてみよう!



- 遺跡・史跡、歴史上の名所
- 神社・仏閣、歴史的建造物
- 歴史上の人物など
- 祭り
- 伝統行事
- 美術品
- 伝統芸能 など
- 景勝
- 生物・花
- 町並み
- etc その他

0m 500m 1km

行った日



**きょうとくじ 慶徳寺**

浄土真宗本願寺派のお寺です。永録3年(1560)、梶原刑部太夫が開きました。寛永7年(1630)に浄土真宗のお寺として認められました。村の西外れの八家川沿いにありましたが、お寺の土地がせまく今の場所に移りました。いつ移ったかは分かっていません。慶応2年(1866)に本堂が建て直されました。

行った日



**さいねんじ 西念寺**

正式な名前は浄土真宗本願寺派臨江山西念寺です。『節磨郡誌』には、天正8年(1580)に開かれ、延宝3年(1675)に浄土真宗のお寺として認められたとあります。宝暦12年(1762)と大正4年(1915)に建て直されました。樹齢(木の年齢)500~600年のジャクソンの木があり、市の保存樹に指定されています。

行った日



**しょうふくじ 正福寺**

正式な名前は浄土真宗西本願寺派清流山正福寺といえます。享禄4年(1531)、摂州生玉庄大坂北町で開かれました。元和元年(1615)、大坂夏の陣で焼けてなくなり、木庭山のふもとにお堂を建てたのが木庭正福寺の始まりです。西の町に移り清水の道場とよばれていましたが、その後、今の場所に移りました。

行った日



**そでじぞう 袖もぎ地蔵**

木場から福泊の峠道にある小さなお堂に、南向きにおかれている石棺仏を、袖もぎ地蔵といえます。家の形をした石棺のふたに地蔵立像が彫られていて、このお地蔵さまの前で転んだ者は着物の袖をお供えしないと悪いことが起きると言い伝えられています。

行った日



**なみきりふ どうみょうおう 波切不動明王**

小赤壁におられる波切不動明王は、昭和12年(1937)に建てられました。波切とは、波を静めることであり、波切不動明王とは波を静める魔法の力をもった不動明王のことです。舟乗りの多かった大木庭の人たちが海の安全を祈って建てました。